

松波むかし語り ここに生き続けて その55

今回のお客様

松波に住んでもうすぐ1年、千葉市長の

くまがい としひと

熊谷 俊人さん 37歳 3丁目

“松波は花と緑が多く、立ち話を多く見かける町で、治安がよく安心して子育てできる町です。”



“市長さん”といえば、黒塗りの車に乗って、私たちシモジモとは言葉を交わす機会などないお方だとながく思っていました。でもこの市長さんは、朝はマイカーで子どもさんたちを保育所へ送ってゆかれるし、むしろ市長さんのほうからニコニコとあいさつされ、およそ以前の市長さんイメージとは違うのです。そこで俄然興味がわいて、「むかし語り」でもなければ「生き続けて」もない方ですが、思い切ってインタビューしてみました。

◇

熊谷さんは神戸で育ち、やがてお父さんの転勤で幼稚園・小学校と千葉の浦安で過ごしまた神戸に舞い戻るといふ少年時代を送りました。「大学は早稲田でしたが、歴史が感じられる下町が好きで、千住など都内でも千葉県に近い東部に住みました」。で、どうして市長を志したのですか？ 「高校2年のときに阪神淡路大震災が起きて、遊び場だったところが焼けてしまったりしたのですが、都市計画や町づくりによって、被害や復興のテンポがぜんぜん違うことに気がついたのです。社会人になってからも、そうした町づくりへの思いを断ち切れなかったところへ、たまたま上司がアメリカで衆院議員の田嶋さんと一緒だったんです。議員会館で田嶋さんにお目にかかったら、『市会議員候補を公募しているから応募してみたら』と勧められ、思い切って仕事を辞め市会議員に立候補したのです。そして29歳で市会議員に当選し、31歳で市長に選んでいただきました」。

◇

市長のお仕事はどうか？ 「議員は普通の市民の100倍の情報が集まるような気がするのですが、市長はさらにその100倍の情報が入ってくるのではないのでしょうか。でも、1人しかいませんから言い訳はきかない責任の重い仕事です」。では千葉市についてどう思われますか？ 「まず、私のような地縁もない人間を市長に選んでいただいた市民のみなさんの感性はすごいと思ったことと、加曾利貝塚や千葉氏の活躍など、大都市の中でも古い歴史をもっている街なのに、そのことがあまり意識されていない世間に知られてもいないのは残念に思っていました」。うかがうと、熊谷さんは歴史がご趣味だとか。時間があれば、歴史の本を読んだり千葉公園の鉄道連隊の遺構を訪ねたりなさるそうです。

◇

なぜ、松波を住まいに選ばれたのですか？ 「もちろん、駅に近いことや近くに千葉公園や図書館があるといった利便性もありますが、その割には静かですし、花や緑を愛する人が多いことに加えて、住むみなさんの立ち話が多い。このことは、4歳と2歳の小さな子を持つ親としては治安がいいという安心感につながります」。これまで住んでおられた穴川では自治会の防犯部長も務めておられたとか。「秋祭りや節分の屋台の設営などもやりましたから、夏祭りや町会費をいただくことのたいへんさも経験しましたし……」。

「これからは、この街にしかないものが価値の出る時代で、千葉市美術館のような特色ある施設が誇れる時代です」と語る熊谷さん、最後に「市長は忙しい仕事ですが、月に2～3日は休養日をとって子どもたちと過ごしたいと思います」とお父さんの顔に……。